

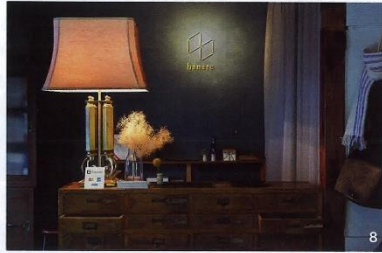
今までの殻を破ったホテルの出現は、日本のホテル市場に足りなかった個性や国際的求心力となる

にまたがる「谷根千」(谷中、根津、千駄木)はその代表だ。古民家、寺町、昔ながらの対面商店街が軒を並べる町に、外国人観光客のみならず日本人も郷愁を誘われてやってくる。今や東京人でも憧れるその谷中で、築60年の木造アパート「萩荘」を改築し、懐かしい趣の最小文化複合施設「HAGISO」を造ったのが、HAGI STUDIO代表取締役の宮崎晃吉氏である。HAGISOの1階にはHAGI CAFEとレンタルスペースが、2階にはホテルの受付&ショップがある。ホテルに泊まる人はまずこの2階でチェックインする。

hanareはそこから徒歩2分の別棟だ。宮崎氏が考えたのは、下町の情緒を残し、東京の古きよきライフスタイルをなんとか世界に発信できないかということ。そのきっかけは旅で訪れた古都ローマにあった。「ローマで安宿に泊まったら、部屋も、レストランも町と完全に一体化し、まるで町に泊まっているようだった」と、その体験が彼を動かした。谷中の「あたりまえで特別な風景」を残し、町全体をホテルに見立て「町に泊まろう!」と掲げたのである。そして生まれたホテル「hanare」は、まさに静かな住宅地に溶け込んでいる。HPに掲載されている一節が谷中の魅力を物語る。「朝は早く、道を掃く僧侶が軒先で挨拶を交わす。昼は通りに人が賑わい、ひっそりとした路地では子供たちが猫とたわむれる。夕暮れはいくつもの鐘の音が響き、静けさとともに坂の家々は赤く照らされる。夜は小さな店がポツポツと暖簾をかかげ、すれ違う人は銭湯帰りの暖かなお湯の香りを運んでくる」と。懐かしい映画のシーンのような風情だ。hanareに泊まると、町の銭湯チケットがつく。食事は町のおいしい飲食店。レンタサイクルは町の自転車屋さん。朝食はHAGI CAFEが提供する。地域一帯型の「町に暮らすように泊まる」提案である。

もう一軒、住所は上野池之端。ここにも住宅街に紛れるように「HOTEL GRAPHY NEZU」がある。ライフスタイルホテルとして、文化創造企業「グローバルエージェンツ」が、2012年2月に開業した。目的は「ゲスト同士が交流を深める場」と謳う。迷路のような住宅地にありながら、中では多言語が飛び交い、外国人旅行者のほかにも地元サークル仲間や若者が集う。また共用キッチンでは料理教室の楽しげな声も響く隠れ家ホテルである。経営者である代表取締役社長の山崎剛氏は、交流型賃貸マンション「ソーシャルアパートメント」事業で成功、ライフスタイルホテルの経営にも幅広く活躍する若手実業家だ。

ここに挙げた気鋭のホテル経営者たちは、発想の柔軟性とグローバルな視野、強いオーラと人間力で人を惹きつける。「端から最高級ホテルとは競合も競争もしない」と、確固たる志を全うしている。3人の表現法は違っても、こうして今までの殻を破ったホテルの出現は、日本のホテル市場に足りなかった個性や国際的求心力となるだろう。やっと日本のホテル市場に「多様な選択肢」が見え始めた。■



hanare - MARUKOSHISO

●東京都台東区谷中3の10の25 HAGISO
☎03(5834)7301 hanare.hagiso.jp/
客室/5室、料金/1名¥12,000~(朝食+銭湯券つき) トイレ、シャワールーム、洗面所は共用。JR日暮里駅から徒歩5分



13 住宅地に溶け込むように建つレジデンシャルスタイルの「HOTEL GRAPHY」は知る人ぞ知る。1階のカフェは朝7時から営業、朝食も。17時~23時はバーに変身。14 ツインルーム(14㎡)。客室は9㎡~33㎡までさまざまなタイプが。

HOTEL GRAPHY NEZU

●東京都台東区池之端4の5の10 ☎03(3828)7377 www.hotel-graphy.com/ 全55室。1泊1名¥8,000~(ドミトリーを除く) カフェ、バー、ルーフトップ、ランドリーなどあり。地下鉄千代田線「根津駅」より徒歩3分